

みなさん、今日は、寒いなか、また、年末の気ぜわしいなか、「万博中止！カジノはいらん！御堂筋1000人パレード」にようこそ。寒いわ年の瀬やわというだけではありませんよね。ここにおられる多くの方が、いまパレスチナで起こっている信じがたい虐殺行為に心を痛めながらのご参加だと思います。

イラン出身の漫画家、マルジャン・サトラピが、次のように言っています。

「世界は東西に分割されているわけではない。あなたはアメリカ人で、私はイラン人で、話し合い、お互いに十分に理解し合える。あなたとあなたの政府との違いの方が、あなたと私の違いよりも大きい。私と私の政府の違いの方が、私とあなたの違いよりも大きい。そして、私たち両者の政府同士の間には、全く違いがないのだ。」

10月7日以降、世界各地でこれまでに例をみないほど大きなパレスチナ連帯のデモが巻き起こり、「今すぐ停戦を」と今も求め続けています。イスラエル国内でも多くの人びとが声を上げているのに、政府はその声を聞き入れようとしません。この信じがたいような虐殺行為と、ここ大阪での万博カジノの問題を重ねて考えるのは不謹慎だという向きもあるかもしれませんが。でも、大阪でいま起こっている事と、大阪から遠く離れたパレスチナで起こっている事は、けして無関係ではありません。なぜなら、どちらも、最初に殺されているのは、そこに暮らすひとびとの「声」だからです。

この「御堂筋1000人パレード」開催にあたって私に火を点けたのは、先月26日の、維新の馬場代表による、「大阪では殆ど反対意見が出ない状況になっている」という発言でした。私たち大阪の住民は、住民投票署名をはじめ、様々な形でこれまでもずっと声をあげ続けてきました。そして、現に、いまもここに多くの人たちが集まっています。私たちの声を、「なかったこと」にさせてはなりません。この、声をあげるという行為は、パレスチナの人びとはもちろん、イスラエル国内で平和を求めて声を上げ続けている人々、世界中で連帯する人々の声とも、実は、同じ地続きにあります。これまで以上に深刻な危機感をもって、私たちは、大阪がいま直面している問題について、私たちの声をあげていきましょう。ひとりひとりの小さな声を互いに寄り添わせて、大きな声にしていきましょう。

最後になりましたが、急な呼び掛けにも拘わらず、お配りしたチラシにあるとおり、39の団体労組が協賛団体として宣伝や運営に協力下さっています。協賛いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

あらためまして、「万博中止！カジノはいらん！御堂筋1000人パレード」へようこそ。
寒いですが、みんなで楽しく歩いて、ぬくもっていきましょう！

万博中止へのこの取り組みを続けるために、カンパのご協力も、どうぞ宜しくお願いいたします。
ご清聴ありがとうございました。